

2007 年忘れ お笑いネタ (商売道具/捨てニワトリ/村のサイババ)

【聞いた話】 お坊さんの中には、にわか坊主もいる。勤めをやめ、家(お寺)を継いだばかりで、まだ、お経を覚えていない坊さんに葬儀がきた。それも、元同僚の葬儀。

おもむろにナマンダブ、ナマンダブとはじめたが、いつまでたってもナマンダブ、ナマンダブ……。そのうち、なにやら懐や袂をゴソゴソ探し始め、やがて葬儀場の職員をそばに呼び寄せて耳打ち。こともあろうに、お経の本を忘れてきてしまったらしい。(一部始終は、ピンマイクを通して参列者に筒抜け状態)

この坊さん、仏に向かって小声で「すまんなぁー ちゃん。こぎゃん日に限って、商売道具は、うち忘れちしもうたぁー。ナマンダブ、ナマンダブ・・・」(これもピンマイクで筒抜け)さらに、出棺の際、霊柩車に向かって「 ちゃん、さらば!」と、敬礼した手をピンと跳ね上げて送り出した。参列者一同、「こぎゃん豪快な坊主、はじめち見た。」

【自分の事】 12月13日の朝8時半頃、熊本空港近くの道路でニワトリを拾った。小雨の中、車道の端で呆然と立ち尽くしているところに通りかかり保護。月齢2ヶ月ほどの若鶏で、足と脇腹にカスリ傷があった。実は、この日の朝、我が家で飼っていた茶色ニワトリの1羽が姿を消してしまい、最初は、「こんなところで迷子になっているのか」と思った。でも、よく考えてみたら、家から10kmも離れているので、いくらなんでも、そんな遠出をするニワトリはいない。(実は、この1羽は、テンに取られたことが後日判明。)

1羽いなくなった朝に、別のを拾うなんて、これも何かの縁と思い、保護して連れ帰ったのはいいが、ドライヤーで体を乾かし、ペットボトルにお湯を入れて保温し、なんとか立ち直ったものの、ショックで食事をしない。1日何も食べずに過ごした後、チューブを使って、ウィダーインゼリー(エネルギー)を強制的に胃に流し込んだ。それでなんとか命をつないで、次の日から、隣の家のニワトリ小屋にショートステイに出すことにした。隣には、ちょうどよいことに、同じくらいの月齢の11羽のニワトリがいる。ニワトリは群れの生き物だ。仲間につられて食事するようになり、1週間お泊りしている間にすっかり元気になった。この子の名前は「捨てちゃー坊」にした。

【聞いた話】 我が家の近くに、西原の「サイババ」と呼ばれる女性がいる。住んでいるところは「掘っ立て小屋」。村の観光マップにも「掘っ立て小屋」で紹介されているらしい。ピブーティは出さないが、相談にいくと体の悪いところをすぐに見抜いて、手のひらでスッと触るだけで、たちどころに症状が改善するらしい。冷え性も治るし、子宮が傾いているのも、足が外股なのも、手を添えてキュッキュッキュッとするだけで直るそうだ。

この手の話は信じない方だったが、これまた近くにある「当銭(とうせん)神社」が結構宝くじを当ててくれるらしく、行くたびに鳥居などの寄進が増えているのをみると、信じてもいいよ、って気持ちに傾いてきた。(今、年末ジャンボ20枚、特性「当銭袋」に入っている。)